

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

会 議 名	第 2 回 山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日 時	令和 7 年 6 月 1 1 日（水） 午後 5 時 3 0 分～午後 7 時 0 0 分	
会 場	山ノ内町文化センター 3 階 ホール	
出席・傍聴人数	出席 2 2 人 / 欠席 3 人	傍聴者 5 人
会議内容	【報告事項】 ・ 前回委員会の会議結果について（資料 1） - 準備委員会における検討事項及び全体スケジュールについて（資料 2） 【会議事項】 (1) 学校統合の開校に向けたコンセプトについて ・ 伏木委員長の 5 つの視点を踏まえて（資料 3） ＜テーマ＞義務教育学校について『グループ討議』（資料 4） 4 グループに分かれ義務教育学校の課題や不安、不明な点など自由に意見を出し合い、新しい学校づくりに向けた意識の共有を図った。 【その他】 ・ 保護者及び地区懇談会の開催について（資料 5）	
決定事項等	・ 統合学校整備基本方針について今年度の 1 2 月までに策定を目指す。 ・ 次回準備委員会：令和 7 年 7 月 2 3 日（水） 17：30～	
会議概要及び 質問・意見等	【義務教育学校について（グループ討議）】 ○懸念される事項 ・ 義務教育学校の具体的なイメージが湧きにくく、固定概念の払拭が難しい。 ・ 学校統合により地域文化の継承が困難になる可能性がある。 ・ バス通学によりこどもの基礎体力の低下の懸念がある。 ・ 義務教育学校を経験した大人が少ないため、教職員を含め大人側の意識が変わりにくい。 ○期待される点・可能性 ・ 義務教育学校になることで異学年交流の幅が広がり、多様な活動の機会が増えることで、こどもたちにとって良いことがたくさんある。 ・ 特別支援教育支援員や A L T が一つの学校に集まることで、効率的な活動ができ内容面でも充実しやすい。 ・ 義務教育学校は幅広い年齢層のこどもたちがいるため、習熟度別の学習やこどもたちが学びたいことを選んで学習する等、きめ細やかな対応がしやすくなる可能性がある。 ・ 地域の人たちが学校施設をこどもたちと一緒に利用するような、「地域のための学校」というイメージに変わっていくことで、新たなコミュニティ・スクールの形が生まれる可能性がある。 【その他意見等】 ・ ディスカッションを行うことで義務教育学校に対する固定概念や不安な気持ちが消されると感じた。	